

2022年5月9日

各 位

会社名 株式会社三ツ星
代表者 代表取締役社長 競 良一
問合せ先 取締役執行役員総務部長 松山 元
電話番号 06-6261-8881

当社よりアダージキャピタルらに3月25日付で送付した質問状 および4月8日付で送付した文書に対する回答受領に関するお知らせ

当社は、2022年3月29日付「アダージキャピタル有限責任組合及び株式会社シンシア工務店への質問事項の送付に関するお知らせ」において開示いたしましたとおり、当社株主であるアダージキャピタル有限責任事業組合（旧名称：有限責任事業組合HDDインベストメント）（以下「アダージキャピタル」といいます。）及びアダージキャピタルの代表組合員である株式会社シンシア工務店宛てに2022年3月25日付「アダージキャピタル有限責任事業組合及び株式会社シンシア工務店に対する質問事項」（以下「本質問事項」といいます。）を送付し、さらに、当社が2022年4月8日開催の当社取締役会において導入を決定した当社株式の大規模買付行為等への対応方針（以下「本対応方針」といいます。）に基づき、2022年4月8日付の文書により、アダージキャピタル並びにアダージキャピタルと実質的に共同して当社株式の買付けを行っている合理的な疑いがあると当社が判断する本多敏行氏、合同会社サクセスインベストメント、株式会社和円商事、及びCMC JAPAN株式会社（以下、総称して「その他関係者」といい、アダージキャピタルと合わせて「アダージキャピタルら」といいます。）に対し、本対応方針に係る手続きとして、本対応方針に定められた手続きに従う旨の法的拘束力を有する誓約文言を含む意向表明書（以下「大規模買付行為等意向表明書」といいます。）の提出を要請いたしました。これらに対し、アダージキャピタルより、2022年4月26日付「貴社の当組合に対する2022年4月8日付け「ご連絡」に対する回答」（以下「本回答書①」といいます。）及び同日付「貴社の当組合に対する2022年3月25日付け「ご連絡」の別紙「アダージキャピタル有限責任事業組合及び株式会社シンシア工務店に対する質問事項」に対する回答」（以下「本回答書②」といいます。）を受領いたしましたので、お知らせいたします。

アダージキャピタルは、本回答書①において、その他関係者はいずれも、アダージキャピタルとの関係において金融商品取引法27条の23第5項に規定する共同保有者（同条6項に基づき共同保有者とみなされる者を含む。）、同法27条の2第1項に規定する「特別関係者」若しくはアダージキャピタルと共同ないし協調して行動する者等の本対応方針に定める「関係者」に該当せず、したがって、アダージキャピタルは本対応方針に定める「大規模買付行為等」を行っておらず、「大規模買付者」に該当しないため、本対応方針に定める大規模買付行為等意向表明書の提出を要しないと述べ、現在に至るまで大規模買付行為等意向表明書を提出しておりません。しかしながら、当社といたしましては、当社の調査により判明したアダージキャピタルとその他関係者と

の間の関係性及びアダージキャピタルらによる当社株式を対象とする買集め行為の状況に照らせば、アダージキャピタルらが共同ないし協調して行動していることは明らかであり、アダージキャピタルは、本対応方針に違反していると考えております。当社といたしましては、今後、2022年4月8日付「独立委員会の設置及び独立委員会委員の選任について」において開示いたしました独立委員会の意見も踏まえて、対抗措置の発動について判断する所存です。

また、本回答書②におけるアダージキャピタルの回答内容について、当社といたしましては、アダージキャピタルは、当社からの質問の大半について実質的に何ら具体的な回答を行っていないか、アダージキャピタルの過去の組合員についての事情は把握していない等として回答を逃れようとしている、大量保有報告の不提出等の指摘に対して「失念していた」等と開き直る態度が見受けられる等、不合理かつ不誠実な回答に終始していると考えております。アダージキャピタルは、株主提案の理由において「当社の経営資源を有効活用せずに、従来事業のオペレーションを行うのみで当社の企業価値を低迷させ続けている現取締役会・経営陣に、このまま当社の経営を委ね続けることは、当社の衰退を招くものであるといわざるを得ません」等と述べながら、当社が「臨時株主総会招集ご通知」などで示した現経営陣のこれまでの取り組みと成果に対しては何ら具体的な反応を示さず、経営参画の具体的内容を問われると「現経営陣や幹部従業員と協議」する等と述べるに至っており、アダージキャピタルが当社の経営を掌握した後の経営方針及び事業計画を具体的に有しないことは明らかと考えられます。そもそも、当社に対し経営陣の刷新を求めて臨時株主総会の招集を請求する以前において、アダージキャピタルらが当社に接触したことはなく、当社の企業価値を高めるための対話どころか当社の経営を理解しようとする姿勢すら見せないまま、一方的に経営陣刷新の株主提案をするアダージキャピタルの行動は、上場企業と株主との間にあるべき建設的な対話のプロセスからは大きく逸脱したものと言わざるを得ません。当社といたしましては、アダージキャピタルの回答内容を踏まえれば、アダージキャピタルが真摯に合理的な経営を目指さない株主であることが明白になったと考えており、アダージキャピタルが当社の経営を掌握することにより、当社の企業価値及び株主共同の利益が毀損される懸念が一層強まったと考えております。

本回答書②の全文と、本回答書②におけるアダージキャピタルの回答内容に対する当社の認識を取りまとめた一覧リストについては、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.kk-mitsuboshi.co.jp>) に掲載させていただきます。

なお、当社では、アダージキャピタルらに対して追加的に質問を行うことも検討しております。その際には改めて、質問内容及び回答結果について当社ホームページ上で公表する等、株主の皆様にご報告させていただきます。